

NPO 法人クリエイイト九州 活動の歩み

NPO 法人クリエイイト九州

はじめに

“今後の地方をどうするか”。“果たして、地方は蘇るか”。

NPO 法人クリエイト九州が平成 20 年度の事業報告で問いかけたテーマである。

あれから約 6 年、未だにはっきりとした解決策は見えておらず、今でも我が国の重要テーマの一つである。

当時の日本経済は回復の兆しが見えず、政治も混迷しており、政権交代が喧伝され、国民は日本を覆う閉塞感を打破すべく、平成 21 年 8 月の衆議院議員選挙において民主党を大勝させ、自民党との政権交代を実現させた。しかし、民主党政権は場当たりの発言や稚拙な対応ばかりが目につき、国民の期待に応えることができないまま終焉を迎えた。

平成 23 年 12 月自民党が政権を奪還。アベノミクス、異次元の金融緩和による株価の大幅上昇、円安ドル高により、日本経済は明るい兆しが見えつつある。

しかし、市民レベルで見渡すと、「所得格差」「地域格差」「教育格差」などの「格差」は縮まるどころか広がるばかり、非正規雇用の増加や、社会保障費用や生活保護受給世帯の増大、地域経済の荒廃、自治体の財政破綻懸念などの課題は重くのしかかったままだ。

今後、4 月の消費税増税の影響がどこまで出てくるのかまったくわからず、日本経済は本格的に回復するかどうかの岐路に立っているともいえる。

振り返ってみると、我が国は、戦後の荒廃から「豊かさ」を求めて、いかに欧米にキャッチアップするかを目標に経済成長を続けてきた。

その一方で、高度経済成長期から脈々と続く「国土の均衡ある発展」のスローガンの下、伝統的に地域間「所得」格差を解消し、経済成長の果実である税収を地方へ再分配してきた経緯がある。

ところが、経済が低成長期に入り、再分配のための財源が乏しくなったことに伴い、公的な支出が削減されるようになってくると、官公需に依存していた地方ほどその影響が大きくなり、地域経済は疲弊していくこととなった。

地域間の所得格差は高度経済成長期から比べると小さくなっているものの、労働生産性の差は逆に拡大しているのである。国からの補助金や公的な仕事の配分を地方が受ける再分配政策では労働生産性を引き上げることはできず、生産性の向上を伴わない所得上昇は地域の競争力を失わせ、財政難の時代にはそうした地域が疲弊する結果となったといわれている。

地方がこのような構造的な状況に陥ったのは、実は、地方が自立し、地方の価値観で地方づくりをしてこなかった、させてもらえなかったことに起因するのではないだろうか。

NPO 法人クリエイト九州では、地域の視点に立った地域主体の活性化が求められる中で、佐賀を事例として、その議論が進展するための一たたき台となるような提案をまとめ行政や経済団体等に提言してきた。

この冊子はその歩みを簡単にまとめたものである。佐賀・九州のさらなる発展の一助となれば幸いである。

なお、報告書及び冊子については、<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp> の調査研究レポートのページを参照されたい。

NPO 法人クリエイト九州

理事長 川上 義幸

平成 19 年度事業（2007 年度）

○調査・研究事業

初年度の平成 19 年度は、NPO 法人クリエイト九州の法人認可が平成 19 年 12 月 27 日だったため、活動期間は約 3 ヶ月間であった。

最初の取り組みとして佐賀県建設業協会、佐賀大学と連携した建設夢広場事業「経営未来塾」を開催した。「経営未来塾」は、建設業がおかれている厳しい経営環境を少しでも改善する方向に持っていけないか、そのきっかけとなることできないかと考え、佐賀大学と佐賀県建設業協会との連携事業として始めた。

「経営未来塾」には、県内で建設業を営まれている 22 社のオーナーや管理職が参加。建設業の現状や問題点等の分析や入札を適正に見直し、技術力で競争できるような環境整備の必要性、建設業の進むべき方向性や磨くべき技術等を学ぶ勉強会を合計 4 回開催。

川上理事長がコーディネーター役を務め、適宜、参加者から本音の意見を引き出し、こちらから客観的な情報を提供しては議論を重ね、その内容を当法人が報告書としてまとめた。

報告書の概要を簡単に紹介すると、なぜ建設業の経営が厳しくなったか。それは、一言で言えば仕事(公共事業)が短期間の間に減少したこと。そして、その流れに建設業界が着いていけなかったということ。

加えて、受注に当たって競争の自由化、過当競争が進んだこと。低入札が恒常化し、収益が出ない額で応札することになった。「経営未来塾」報告書の「塾生の声」(下記アドレスの経営未来塾報告書の 19 ページ以降に掲載)に、その実態が明確となっている。

今後の課題として、良質な社会資本整備という国民の負託に答えるためには技術研鑽、品質確保、コスト削減を官民連携のもとに行うことが必要だ。

発注者側には、この報告書について説明を行い、理解を求めた。さらに、記者会見を行い、広く世間に建設業の現状や問題点、課題、解決への道筋等を知らせた。

提言内容は、全国紙や地元紙に掲載され、中でも建設業の専門新聞「建設通信新聞」では、「川上理事長のように官民を巻き込んでタクトを振るような方は全国でも稀有な存在であり、建設業の閉塞状況を打開する可能性を秘めた取り組みをされている、佐賀県から何か始まりそうだ」と高く評価された。(下記アドレスの経営未来塾報告書の 24 ページに記事を掲載)

最低落札率や建設業関係者の賃金アップ、若年層の育成等、時代を先取りした内容にもなっていた。

詳しくは、<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/miraijukuhoukokusho.pdf> (経営未来塾報告書) を参照されたい。

○川上理事長の講演等の活動

- ・食フォーラム「有明海沿岸地域の魅力を伝えよう～有明海沿岸地域の伝統的な食を考える～」

基調講演「有明海、有明海沿岸地域について」

主催・NPO 法人有明海ぐるりんネット

平成 20 年 3 月 2 日

川上理事長が、基調講演を行い、有明海にもっと興味を持ってもらうために有明海の成り立ちや恵み、有明海再生への取り組み、クリエイト九州の目指しているもの等を講演

- ・「武雄、佐賀そして北部九州～佐賀を豊かにする一考察～」

主催・若木町婦人会

平成 20 年 3 月 30 日

武雄市の若木町婦人会の総会で講演を行い、佐賀を発展させるためには、広域的な視点からの取り組みが重要だと交通インフラを例に上げながら解説した。

○報告書及び冊子

- ・報告書「経営未来塾」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/miraijukuhoukokusho.pdf>

平成 20 年度事業（2008 年度）

○調査・研究事業

平成 20 年度は、佐賀県の地域構造や特色の整理をするため、佐賀県の人口、所得、特徴等、統計データをもとに作成した。あわせて、広域的な観点から交通インフラについて考え、議論のたたき台として、有明佐賀空港の拠点空港化と九州ラウンド構想(仮称)を提案した。これらを事業報告書としてまとめ、知事をはじめとする行政や経済団体等に提言した。

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/kongonochihouwodousuruka.pdf> を参照されたい。

○シンポジウム事業

シンポジウム「私たちの住んでいる地域（空間）をデザインする～空間に刻まれた歴史・暮らし・文化を語る」を 2009 年 1 月 10 日土曜日に佐賀県立博物館・美術館ホールで開催した。

将来の佐賀、北部九州をどうデザインするかという前に、この空間はどういうところか。特に九州はアジアに近く、歴史的にみればアジアとの歴史・文化のつながりは深くこの地域に刻まれている。まずはそういったことをしっかり勉強し、それをベースに佐賀、北部九州の魅力をみんなで発見しながら、今後この地域をどうデザインするかということにつなげていきたいと考え開催した。

第一部の基調講演では、国土計画の第一人者である矢田俊文先生(北九州市立大学学長、九州大学名誉教授)に国土をどうデザインするかというお話をしていただいた。

第二部は、佐賀の外からいろいろな佐賀の魅力を研究されている桑子敏雄先生(東京工業大学大学院教授)、合田博子先生(兵庫県立大学環境人間学部教授)、そして佐賀の中からは徐福を研究されている村岡央麻社長(村岡屋社長)、栄西に詳しい多良正裕氏(地域おこしグループさざんか塾塾長)、佐賀をこよなく愛している荒牧軍治先生(佐賀大学教授)でパネルディスカッションを行った。

国土形成計画から地域に残っている歴史・風土等を幅広く取り上げ、来場者に、佐賀、北部九州についていろいろと考える機会を提供し、来場者とともに地域の良さを再認識し、今後のまちづくり等の一助となるような内容となった。あわせて報告書も作成し、県庁や佐賀市、経済界等に配布した。

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/symposeikahoukokusho.pdf> を参照されたい。

○川上理事長の講演等の活動

- ・講義「筑後川」(久留米学前期講義「歴史と環境」)

主催・久留米大学

平成 20 年 6 月 6 日

川上理事長が、久留米大学の学生及び久留米市民を対象に講義。

- ・講義「有明海」(久留米学前期講義「歴史と環境」)

主催・久留米大学

平成 20 年 6 月 12 日

川上理事長が、久留米大学の学生及び久留米市民を対象に講義。

- ・講演「建設業の実態とその改善への取り組み～経営未来塾の取りまとめ～」

主催・佐賀県建設業協会

平成 20 年 6 月 17 日

川上理事長が、建設業協会の会員に、経営未来塾でまとめた建設業の実態や改善への取り組み、建設業が進むべき方向性、その対応策等について講演。

- ・シンポジウム「有明海再生に向けた新たなステップ」

主催 NPO 法人有明海再生機構

平成 20 年 6 月 4 日

NPO 法人有明海再生機構の顧問も務める川上理事長が、シンポジウムのパネルディスカッション「環境変化の現状認識・共有化から再生へのアプローチ」でコーディネーターを務めた。

- ・「大川あなたとわたしのまちづくりセミナー」

基調講演「私たちの生活と水」

主催・大川市

平成 20 年 9 月 5 日

川上理事長が、大川市の「大川あなたとわたしのまちづくりセミナー」で基調講演。水に関する基本的事項や筑後川・有明海とのかかわり、水の課題、大筑紫圏構想をわかりやすく解説。

- ・シンポジウム「歴史・文化を活かしたまちづくりシンポジウム」

主催・佐賀市

平成 20 年 10 月 24 日

川上理事長が、パネルディスカッションにパネリストとして出席。（第一部は国土交通省 都市・地域整備局公園緑地・景観課長小林昭氏の基調講演「歴史・文化を活かしたまちづくり～地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律の制定～」）

- ・講演「行政サイドからの有明海の取り組みについて」

平成 20 年 12 月 18 日

川上理事長が講演

- ・講演「佐賀・九州の将来展望と建設業の役割」

主催・佐賀県建設業協会

平成 21 年 1 月 23 日

川上理事長が、今後の社会資本整備のあり方、地方の課題は地方固有の問題として認識し、中央ではなく地方が主体的に解決すること等について講演。広域的な社会資本整備として、道州制を意識した総合交通体系の構築をあげ、有明佐賀空港の拠点空港化や、九州新幹線西九州ルート of 利活用、有明海沿岸道路等の早期完成等について提案。

- ・有明海沿岸域活性化フォーラム「有明海沿岸地域の魅力を伝えよう～パートⅡ 有明海沿岸域の活性化を考える～」

主催・活性化フォーラム実行委員会（有明海ぐるりんネット）

平成 21 年 3 月 14 日

川上理事長が、パネルディスカッションにパネリストとして参加。

- ・ 討論会 『『荒牧・川上』が熱い思いで佐賀の将来を語る～今後の社会資本整備あり方について～』

平成 21 年 3 月 29 日

佐賀大学と佐賀県建設業協会との連携事業「建設夢広場」の一環として佐賀大学で開催。川上理事長と荒牧佐賀大学教授が、上別府西日本新聞佐賀総局長の司会のもと、今後の社会資本整備のあり方を紹介しながら、佐賀の将来像を熱く語った。

○報告書及び冊子

冊子「私たちの住んでいる地域（空間）をデザインする～空間に刻まれた歴史・暮らし・文化を語る～」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/symposeikahoukokusho.pdf>

事業報告書「今後の地方をどうするか」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/kongonochihouwodousuruka.pdf>

平成 21 年度事業（2009 年度）

○調査・研究事業

有明佐賀空港の貨物拠点化と九州ラウンド構想について本格的に検討した。

九州の国際航空貨物の現状、福岡空港の課題と見通し、有明佐賀空港における国際航空貨物利用の方向性を分析してまとめた。

具体的な提案として、福島空港や有明佐賀空港への途中寄港を検討していた香港空港をハブ空港としているエアホンコンのセントレア⇄香港の既存貨物便を、有明佐賀空港に輸出時のみ途中寄港させるバウンド便を紹介した。

次に港湾関係で拠点港（博多港・北九州港）と地方港（伊万里港等）を組み合わせた九州全体の利益を考えた運航が可能となる九州ラウンド構想を引き続き調査・研究した。

なお、2009 年度は博多港と北九州港が九州ラウンド構想に加わらない場合を想定して、九州の地方港と釜山港が組んだ九州地方港ラウンド構想もあわせて調査・研究した。

九州地方港ラウンド構想で期待される効果は次の通り。

- ・地方港（博多港、北九州港を除く）の利益を考えた運行が可能となり、取扱貨物の増加が見込める。
- ・地方港は、独自で航路を開拓する必要がなくなり、釜山からのラウンド船が西・東廻りそれぞれ約 2 日に 1 便就航することにより利便性が増す。現状での地方港のサービス頻度は、週 1～2 便程度だったのがデイリーサービスになり、利用する荷主にとっても利便性が大きく向上する。また、デイリーサービスによりトランジットタイムの短縮にも繋がる。
- ・フィーダーポートに専念することによりコンパクトな港湾設計が可能となり、資本投資の効率化が期待できる。
- ・九州地方港連合としてのポートセールスが展開でき、貨物の集中が期待できるため、寄港を検討する船会社にとっても魅力が増す。また、これまで各県ごとに行っていたポートセールスの費用が圧縮できる。
- ・地方港にとっては、従来難しかったサービスルートが釜山 T/S で可能となり新たな貨物の集荷が可能となる。北米航路、欧州航路等。
- ・地方港の荷主にとっては、トランジットタイム、サービスポートなどの充実により、近隣の港の利便性が向上し、物流コストの低減が図れる。九州内における輸出入貨物のトラックによる輸送を軽減でき、結果的に二酸化炭素削減にも寄与出来る。
- ・釜山ラウンド船のほか、中国（上海・青島・大連）ラウンド船、東南アジア（香港・台湾）ラウンド船という航路も期待できる。

○討論会

2009 年度は、佐賀市のまちづくりの課題・問題点、目指すべき方向性を検討するまちづくり討論会「どうするまちづくり」を、7 月 18 日と 10 月 24 日の 2 回開催した。

2 回ともコーディネーターは当法人の川上理事長が務め、パネリストとして佐賀大学の長教授、外尾教授、木原教授を迎え、喧々諤々の議論を展開した。

1 回目の 7 月 18 日には、川上理事長が、佐賀市のまち形成の変遷について、合併と人口増加、公共施設移転・分散、土地区画整理事業の進展等をもとに紹介し、特徴の一つとして、佐賀市のまち機能が多極分散化している実態を指摘し、これをもとに議論を行った。

まず、パネラーから、次のような提案や意見が出された。

- ・佐賀は都市というより農村社会にまち機能が形成され、自然豊かで安定感のある町という印象がある。中心商店街の問題については人が大事で、商店主だけに任せるのではなく市民を巻き込んだ新しい町衆の形成が必要である。

- ・約 7500 人という佐賀大学の学生のエネルギーをまちづくりに活用すべき。
- ・佐賀の参考となるアジアやヨーロッパの事例をもとに、農村に囲まれたビレッジをつくる、コミュニティを強化するなど、佐賀らしいコンパクトシティ(全国的に展開されている概念とは異なる)を形成すべき。旧村単位でコミュニティをつくる。地域コミュニティづくりに必要なものは、住民による地域分権を進め、そして市町がこれをサポートすることが望ましいという提案があった。これについて嬉野市で試行的に取り組まれているので参考にすべきだ。
- ・インフラ整備として、高齢化社会を視野にいて、まちの南北の軸を形成するためにも LRT(路面電車)の整備の提案もあった。

また、会場からは次のような提案や意見が出された。

- ・「今日のようなシンポをいくらやっても、佐賀のまちづくりは進まない。同じような議論ばかりやっている。昨日「医商連携」によるまちづくりのシンポがあったようだ。同じ佐賀大学か中心であったようだが、なぜ連携できないか。今日のパネラーのような専門家が佐賀のまちをどうするのかというビジョンを佐賀市から任されて責任を持って行うべき」
- ・「まちづくりは、都市計画の専門家だけで議論すべきではない。生活者の視点が重要。佐賀は、子育ての環境は最悪。女性にとっても生活しづらい。30、40 代の子育て世代の女性の参加を得て、意見を反映すべき」
- ・「佐賀は、農村風景が似合うまち。佐賀大学の留学生は佐賀がお気に入り。佐賀は、この自然や歴史を生かして佐賀らしさの魅力アップにとりくむべき」
- ・「他のまちづくりの成功例を見ていると、人であり、行政に頼らない民間(まちづくり株式会社)の力があるようだ」
- ・「まちづくりのビジョンが明確でない。どういうまちにするか関係者(市民、企業、大学、行政)間でイメージを合わせる必要がある。現在は、そのイメージすらない。そんな中で、市長が中心街の空き地や空きビルを購入するという話は、ナンセンス」

このまちづくりシンポジウムの内容は報告書としてまとめ佐賀市長や佐賀市議会議員、経済団体等に配布した。詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/machizukurihoukokusho.pdf> を参照されたい。

○川上理事長の講演等の活動

- ・講演「佐賀平野の水を語る」

主催・佐賀市水対策市民会議

平成 21 年（2009 年）5 月 30 日

佐賀市水対策市民会議の会長も務める川上理事長が、なぜ今、水問題か、佐賀平野の特徴と水問題、先人の水とのかかわり、佐賀平野の水問題、現在、進められている水政策、今後の水政策、水を活かしたまちづくり、出来ることから行動する等について講演。市民に佐賀平野の水について考えるきっかけを提供。

- ・講義「筑後川」

主催・久留米大学

平成 21 年 6 月 11 日

久留米大学の前期講義の一環として、久留米大学の学生と市民を対象に講演。川上理事長が、私たちの生活と筑後川、筑後川の概要、筑後川の利水・治水、筑後川の川づくり、地域住民の活動等についてわかりやすく講演。

- ・講演「これからの社会資本整備のあり方」

主催・NPO 法人技術交流フォーラム主催

平成 21 年 11 月 28 日

川上理事長が、佐賀県の土木関係の技術者の方々に、公共事業バッシングのきっかけとなった入札に係る汚職や不正とそれによる入札・契約制度の変遷の説明、公共工事に対してなぜ国民は悪いイメージを持っているのか、大幅な削減が続く公共事業費の推移の解説、これからの社会資本整備のあり方として、まずこれまでの社会資本整備を総括して、ビジョンに基づく国民を巻き込んだ事業展開をする必要があると講演した。

- ・講演「佐賀平野の水」

主催・九州地方整備局

平成 22 年 1 月 14 日

川上理事長の経験談と現下の行政課題について、九州地方整備局の職員を対象に講演。国土交通省九州地方整備局の役割、筑後川水系の課題、佐賀平野の水問題についての問題認識を提示したあと、九州地方整備局が期待されていることとして、これまでの公共事業の総括とビジョン（グローバルな視点、生活視点）に基づいた社会資本整備を提示。筑後川水系では、水共同域の定着と北部九州水資源開発協議会の発展的改組、有明海を含む水マネジメントの確立、佐賀平野の水問題では、利水計画の集大成、水管理システムの構築、リスクマネジメント、技術の伝承が求められていると解説。

○報告書及び冊子

知事提案書「佐賀空港貨物&ラウンド構想」

討論会「どうするまちづくり」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/machizukurihoukokusho.pdf>

平成 22 年度事業（2010 年度）

○調査・研究事業

有明佐賀空港の拠点化について検討した。

有明佐賀空港を貨物の拠点空港とするための当面の課題として、①夜間貨物便の羽田発の時間を 1 時間早め、ヤマト運輸の超速宅急便の利便性向上と関空経由国際貨物の獲得につなげること。②羽田空港における夜間駐機を活用した増便を目指す。例えば、往路・羽田発旅客便、復路・佐賀発夜間貨物便の混合便の新規就航。以上の 2 点を取り上げ、課題解決の糸口を探った。

また、有明佐賀空港における国際航空貨物便の就航可能性として、①インテグレーターの既存貨物便のバウンズ便（途中寄港）の就航、②アジアの都市を結ぶ貨物直行便の新規就航、③全日空の那覇ハブネットワークに接続する貨物便の 3 点について検討した。

その他、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による福島原発事故の影響による日本発の国際航空貨物輸送の状況調査及び荷主企業の危機管理体制見直し状況の実態調査の必要性を提案した。

○川上理事長の講演等の活動

・講義「筑後川」

主催・久留米大学

平成 22 年 6 月 3 日

川上理事長が、久留米大学の学生や久留米市民を対象に、筑後川の特徴や水問題、先人の水とのかかわり、今後の水政策、水をまちづくり等について講演。筑後川について考えるきっかけを提供。

・講演「道州制・地方分権に関する一考察」

主催・佐賀県建設業協会

平成 22 年 10 月 19 日

川上理事長が、九州が目指すべき道州制と地方分権の方向性や課題・問題点、道州制に向けてのあるべき社会資本整備や道州制と地方分権に向けての取り組みや心構え等について講演。

・講演『水を活かした「佐賀市のまちづくり」』

主催・低平地研究会

平成 23 年 1 月 28 日

川上理事長が、水路やクリーク等を活かしたまちづくりについて講演。佐賀市の治水や利水、水路とまちの変遷、水を活かしたまちづくり等について講演。水を活かした佐賀市らしいまちづくりが進められるような情報やアイデアを提供。

・講演「佐賀平野の水～佐賀市が抱える水問題等～」

主催・佐賀市議会

平成 23 年 2 月 10 日

川上理事長が、佐賀市議会用排水対策調査特別委員会で講演。佐賀市議や佐賀市職員、傍聴人に、佐賀平野の治水と利水、整備状況、佐賀市の水問題の現状・課題・解決策等について講演。問題点の整理と問題解決に向けてのきっかけ等を提供。

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/sagaheiyanomizu.pdf> を参照されたい。

- ・講演「佐賀平野の治水と利水」

主催・神崎市

平成 23 年 2 月 12 日

川上理事長が、神崎市で講演。佐賀平野の治水と利水、整備状況、佐賀市の水問題の現状・課題・解決策等について講演。問題点の整理と問題解決に向けてのきっかけ等を提供。

○報告書及び冊子

知事提案書「佐賀空港、貨物・旅客併用案」

冊子「佐賀平野の水～佐賀市が抱える水問題～」。

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/sagaheiyanomizu.pdf>

平成 23 年度事業（2011 年度）

○調査・研究事業

有明佐賀空港の貨物拠点化を引き続き調査した。

まず有明佐賀空港の現状を見ると、旅客便は全日空の羽田便が毎日 4 往復就航、そして春秋航空の上海便が 2 往復（水・土）就航している。夜間貨物便は、羽田→佐賀→関空→青島のルートで火曜～土曜に就航している。税関は旅客のみの出張対応となっている。貨物関係では、貨物建屋と全日空の貨物搬入機械、ヤマトの貨物施設がある。夜間貨物便は、関東圏から九州へのヤマト運輸の超速宅急便がほとんどを占めている。

課題として、既存の羽田発夜間貨物便の利便性向上、羽田行き夜間貨物便の復活、羽田行き旅客便の増便と搭乗率の向上、春秋航空上海便の増便と有効活用、貨物の税関設置と貨物量の確保、アジアのハブ空港への貨物便の就航案がある。

上記の課題を解決するためにいくつかの方法を検討した。

・「既存の夜間貨物便の利便性向上」

既存の夜間貨物便の利便性向上のため羽田発時間を 45 分～1 時間早めることで、超速宅急便の午前中配送のカバー範囲が熊本・長崎・大分まで広がることから（現在は佐賀と福岡のみ）羽田発時間の変更が可能か検討することを提案。また羽田発の時間を早めることにより、有明佐賀空港での貨物積み時間も確保でき、関空行きの貨物を搭載する時間ができる。

・「羽田行き夜間貨物便の復活と旅客便の増便」

どちらも単独就航は難しいので、羽田発は 20 時～21 時台の旅客便、佐賀発は旅客機のベリースペース（おなかの部分）を利用した夜間貨物便という混合便の就航を提案した。羽田の発着枠を確保できるかが課題。関東向けの貨物は、過去に実績のあるヤマトの国内外の宅急便ネットワークを最大活用して確保する。

・「春秋航空の上海便の増便と貨物スペースの有効活用」

春秋航空の上海便を利用したエクスプレス貨物。上海に宅急便網を構築しているヤマトに依頼。需要調査が必要。

・「貨物の税関設置と貨物量の確保」

貨物の税関を設置するためには税関空港になる必要がある。そのためには国際線の定期便化と貨物量を確保しないといけない。春秋航空の定期便化とその他の国際線の誘致が不可欠。貨物量を確保するためにはフォワーダー大手の日通の協力を得なければならない。

この他、ヤマト運輸の国外の宅急便ネットワークを活用し、貨物量の確保を目指す。ヤマト運輸は、台湾（2000 年 10 月）、上海（2010 年 1 月）、シンガポール（2010 年 1 月）、香港（2011 年 2 月）、マレーシア（2011 年 9 月）で宅急便事業を展開している。このネットワークを生かして九州の農産品や魚介類等の生鮮食品を届ける。

そのためには、有明佐賀空港と高速道路を結ぶアクセス道路の建設が重要になってくるほか、各企業の物流の流れを調べ、ニーズを探る必要があるということを提言。

・「アジアのハブ空港の既存貨物便を途中寄港させるバウンド便または既存貨物直行便の誘致」

九州の貨物を狙っている各航空会社へのセールスが必要。

○川上理事長の講演等の活動

・講演「今後の社会資本整備に求められるもの」

主催・佐賀県建設業協会

平成 23 年 6 月 17 日

川上理事長が、公共事業の諸課題、地方分権と建設行政、道州制と社会資本整備、交通体系について講演。

- ・講演「佐賀市のまちづくり」

平成 23 年 6 月 22 日

川上理事長が、佐賀市の全体のまちづくりや中心市街地のあり方、佐賀市の強み・弱み、若い力である佐賀大学生や中高生を使ったまちづくり等について講演。

- ・講演「佐賀平野の水システム」

主催・さが水ものがたり館

平成 23 年 8 月 20 日

川上理事長が、佐賀市全体のまちづくりや中心市街地のあり方、佐賀市の街の変遷、佐賀市らしい水を活かしたまちづくりの提言等について講演

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/sagaheiyanomizusystem.pdf> を参照されたい。

- ・講演「佐賀の活性化」

主催・佐賀市商工会議所

平成 23 年 10 月 5 日

川上理事長が、佐賀市活性化のためのまちづくり、人づくり、新たな価値の創造等について講演

- ・講演「佐賀平野の水（基本知識）」

主催・佐賀市水対策市民会議

平成 24 年 3 月 21 日

川上理事長が、佐賀平野の基本知識、佐賀平野で展開された広域利水事業、水利権と水利用、多布施川の環境用水確保にあたっての関心事と環境用水を考えるうえでのポイント等について講演

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/sagaheiyanomizu.kihonchishiki.pdf> を参照されたい。

○報告書及び冊子

知事提案書「有明佐賀空港の貨物拠点化」

冊子「佐賀平野の水システム」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/sagaheiyanomizusystem.pdf>

冊子「佐賀平野の水（基本知識）」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/sagaheiyanomizu.kihonchishiki.pdf>

平成 24 年度事業（2012 年度）

○調査・研究事業

有明佐賀空港の貨物拠点化について引き続き検討した。

九州の国際航空貨物の獲得を北九州空港が強化している。北九州空港は日通の協力を得て、揚子江快運航空の上海貨物便を就航させた。これは昨年 12 月に運休となったが、新たに日本貨物航空が成田～仁川間の貨物便を週 1 回、輸出時のみ北九州空港に途中寄港させるバウンド便を今年 5 月から運行することになった。

北九州空港の例が示すように、有明佐賀空港が国際貨物を取り扱う空港になるためには、香港・上海・仁川・成田・那覇（全日空）のハブ空港につなぐ路線の確保が必要となる

可能性として、①香港または仁川、上海に就航している既存の貨物便を有明佐賀空港に輸出時のみ途中寄港（バウンド便）、②全日空の那覇ハブと有明佐賀空港をつなぐ貨物便を羽田経由または那覇直行便で新規就航、③アジアのハブ空港への貨物直行便の 3 つが考えられる。

有明佐賀空港への貨物便就航を検討するに当たっては、航空会社とフォワーダーとの思惑が一致しないといけない。このためには、可能性がありそうな航空会社の就航便の運航状況、九州における国際航空貨物量と仕向国の把握（とりわけコアとなる企業の動向）、潜在的な需要として見込める輸出用農産品のアジアでの販売動向などの実態を把握する必要がある。フォワーダーに定期的に接触し、情報を集める。

○川上理事長の講演等の活動

- ・講演「嘉瀬川の水利利用と今後の水利行政のあり方について」

主催・佐賀市水対策市民会議

平成 24 年 4 月 27 日

佐賀市水対策市民会議の会長も務める川上理事長が、佐賀平野の特徴、嘉瀬川多布施川の水利利用、多布施川の環境用水確保の課題、今後の水利行政について講演

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/kasegawanomizuriyou.pdf> を参照されたい。

- ・講演「多布施川の水量と試験通水のポイント復習」

主催・佐賀市水対策市民会議

平成 24 年 5 月 31 日

川上理事長が、多布施川の水量の減量懸念と増量可能性等について解説

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/shikentsusuipoint.pdf> を参照されたい。

- ・講演「多布施川の水について、現時点まででわかったこと」

主催・佐賀市水対策市民会議

平成 24 年 6 月 29 日

川上理事長が、多布施川の水について、現時点まででわかったことを整理、解説

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/genjitenwakata.pdf> を参照されたい。

- ・講演「多布施川の水」

主催・佐賀市議会

平成 24 年 11 月 13 日

川上理事長が、佐賀市議会の用排水対策調査特別委員会で、瀬川水系の水環境に関する課題、嘉瀬川と多布施川の水利利用の状況や今後の水利行政のあり方等について講演

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/tafusegawanomizu.yohisui.2012.11.13.pdf> を参照されたい。

- ・基調講演「健全な水循環系の構築を目指して」

主催・熊本県立大学

平成 25 年 3 月 2 日

川上理事長が、健全な水循環系を構築するために必要なもの、行政、NPO、大学の連携事例の紹介、公助・共助・自助の大切さ等について講演

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/kenzennamizujuukankeinokouchiku.pdf> を参照されたい。

- ・講演「試験通水報告会」

主催・佐賀市水対策市民会議

平成 25 年 3 月 26 日

川上理事長が、ポイントをわかりやすく解説

詳しくは <http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/shikentsusuihoukokukai.pdf> を参照されたい。

○報告書及び冊子

知事提案書「有明佐賀空港の貨物拠点化」

冊子「嘉瀬川の水利用と今後の水利行政のあり方について」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/kasegawanomizuriyou.pdf>

冊子「多布施川の水量と試験通水のポイント復習」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/shikentsusui-point.pdf>

冊子「多布施川の水について、現時点まででわかったこと」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/genjitenwakata.pdf>

冊子「多布施川の水」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/tafusegawanomizu.yohisui.2012.11.13.pdf>

冊子「健全な水循環系の構築を目指して」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/kenzennamizujuukankeinokouchiku.pdf>

冊子「試験通水報告会」

<http://create-kyushu2.sakura.ne.jp/shikentsusuihoukokukai.pdf>

平成 25 年度（2013 年度）

○調査・研究事業

今年度も引き続き有明佐賀空港の貨物拠点化について取り組んだ。

我が国の国際航空貨物の取扱量は平成 16 年度まで経済のグローバル化や欧米の好景気、アジア等の新興国の経済発展等により順調な伸びをみせていた。当時は、平成 17 年度からの伸び悩みも一時的なものとみられ、平成 19 年度当初の予想では、平成 24 年度に 444 万トン、平成 29 年度には 547 万トンまで伸びるとされていた。

しかし、実際は平成 17 年度より国際航空貨物量は伸び悩んでいる。平成 25 年度は回復の兆しが見えたものの、今年度は横ばいの見通しとなっている。

ここ数十年の国内主要空港の国際航空貨物量は、成田空港が横ばい、羽田空港は順調に増加、関空は微減が続き、那覇空港は上昇の兆しが見える。

こうしたなか、有明佐賀空港が国際航空貨物の拠点空港となるためには、香港・仁川・成田・那覇（全日空の那覇ハブネットワーク）につなぐ貨物便の確保が必要となる。

中でも、那覇空港は国策としての投資や所得税 40%控除等の様々な優遇策があるほか、24 時間離着陸可能なうえ、国内で唯一 24 時間の通関が可能となっている等、今後の成長が期待できる。また、全日空も旅客と貨物のアジア間ハブ空港として力を入れ、ヤマト運輸もアジアの貨物倉庫拠点として投資している。この那覇空港への接続を強化する案を特に検討する必要がある。有明佐賀空港は、アジアでの物流網を拡大させている全日空とヤマト運輸とこれまでにつながりがあるという利点もある。

具体例として以下を検討した。

- ・全日空の那覇ハブネットワークを活用したアジア向け貨物便の確保
 - ①国内の他空港と連携した夜間貨物バウンド便の就航（佐賀空港には輸出時のみの途中寄港）。
例.東北の貨物拠点を官民で目指している仙台空港との連携
 - ②有明佐賀空港⇄那覇空港の夜間貨物便の就航
佐賀空港のナイトステイ機を利用した夜間貨物便
 - ③段階的に全日空の那覇ハブネットワークへのつながりを強化
全日空傘下の LCC・ピーチアビエーションの那覇便を誘致し、旅客の那覇便の確保と併せてベリースペースで貨物を運ぶ。
- ・既存国際貨物便のバウンド便（輸出時のみ途中寄港）の就航
- ・アジアのハブ空港に接続する貨物専用直行便の就航

○川上理事長の講演等の活動

- ・パネルディスカッション「今こそ有明海の現状と未来を考えよう」

主催・NPO 法人有明海再生機構

平成 25 年 5 月 26 日

NPO 法人有明海再生機構の顧問も務める川上理事長が、シンポジウムのパネリストとして出席し、現時点で考えられる課題を、開門調査に限らず幅広く抽出して、参加者と共有できるようにわかりやすく提案

- ・講演「有明海の現状と今後の道筋について」

主催・NPO 法人有明海再生機構

平成 25 年 10 月 13 日

川上理事長が、NPO 法人有明海再生機構のシンポジウムで、有明海の現状と有明海再生に向けた今後の取り組みについて講演

- ・講演「有明海を考える」

主催・NPO 法人有明海ぐるりんネット

平成 25 年 12 月 5 日

川上理事長が、NPO 法人ぐるりんネットの定例会で、諫干事業の開門問題の混迷化や有明海の未来につながる開門問題への対応方法等について講演

- ・福岡高校 OB 向け講演「有明海に思う」

平成 26 年 1 月 25 日

川上理事長が諫干問題に揺れる有明海への思いを講演

- ・パネルディスカッション「有明海の未来像を考える」

主催・NPO 法人有明海再生機構

平成 26 年 3 月 22 日

川上理事長が、NPO 法人有明海再生機構のシンポジウムのパネリストとして出席し、諫干事業の開門問題が混迷化している有明海について、目指すべき未来像等を提案。

○報告書及び冊子

知事提案書「有明佐賀空港の貨物拠点化への取り組み」